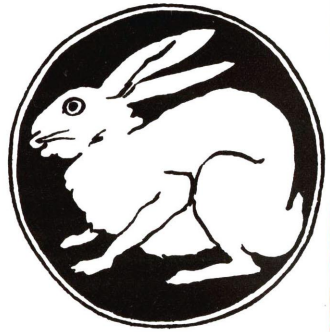


婦人子ども



大正四年二月五日

第十五卷  
第二號



フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

第十五卷第二號目次

個人主義が定族主義か 深作 安文

子供が物を口へ入れる癖 宮本 仲

夏期に於ける幼児の睡眠時間 司馬 のぶ

ビツプの話 岡田 みつ

幼稚園の歌の中より 水町 京子

保育入門(十二) 倉橋 惣三

フレーベル追懷錄

本誌定價

一冊 郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保脚紹介に關する件を含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々  
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年二月一日印刷  
大正四年二月五日發行

編輯兼發行者 東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四  
倉橋 惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地 登

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
フレーベル會

## 二月常會

一、二月十三日(第二土曜日)午後一時半より

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て

一、講 演

練習及び疲勞

東京帝國大學文科大學  
教授文學博士

松本亦太郎氏

廣く一般の來聽を希望す

二月

フレール會

羽仁もと子主幹

# 子供之友

婦人之友社が年來の宿志によつて、昨年四月から出して居ります十分教育的なる子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるゝ御家庭におすゝめ致します。

定價 冊一十錢 半郵 分税 十錢 婦人友社 振替 一六〇〇番 谷

# 個人主義か家族主義か

東京帝國大學文科大學  
助教授 文學士

深 作 安 文

自分は、今日我が國で、家庭に於ても廣く社會國家に於ても、是非解決をせねばならぬ問題があると思ふ。それは個人主義と團體主義の調和といふ事である。個人主義といふのは、文字の示す通り個人に絶體の價值を認めて、個人の屬する家庭なり、社會國家なり、つゝめて云へば、凡べて團體の價值を第二位におく主義である。また團體主義とは、家庭なり、學校なり、銀行會社なり、廣く社會國家なり凡べて凡べて團體の價值を重んじて、之に屬する個人の價值を第二位におく主義である。西洋の思想信仰の根底は個人主義であるといふ事は改めて云ふまでもない。此主義が恰度大洪水のやうにまた暴風のやうに我國に進入し來つて、只今述べたやうな種々の團體によつて立つ團

體主義と衝突を來して居る事は確な事實である。此の衝突は、我々が是非とも解決を急がねばならぬものである。自分は、團體の中から特に家族を取つて其據つて立つ家族主義と個人主義との衝突する所以を述べ、之が解決の方法について、いさゝか思ひついた處を述べて見やうと思ふ。

個人主義には種々の長所がある。其主なるものを云はうならば、其一是、どこまでも人格の價值を尊ぶ事である。男女の別も、貴賤の差も悉く之を取り去つて、人そのものの價值を重んずる事である。こゝから、人の自由なり、權利なりの觀念が明になつて來るのである。従つて其の二は、此主義は個性の發展を重んずるのである。我々は各面おもての異つてゐるやうに天賦も個人によつて違つて

居る。此の個性をどこまでも發達させる事は之を有して居る一個人の上から考へても、また廣く諸々の團體の上から考へても大切な事である。その三は、此の主義は、どこまでも人の自尊心を重んじる。既に己れは一個の人格である。自主獨立の生活をなすものであるといふやうな考からして、容易に他人に膝を屈しないといふやうな、我を重んじ、我を尊ぶ思想が生じて来る、その他にも種々様々あらうけれども、是等が個人主義の主なる特色と思ふ。

次に家族主義にうつて其特色を考へて見やうに、此の主義は、家族の人々の結合協同による事を眼目として、相互の愛情を養ひ、家庭の情味を貴ぶのである。人の此の世に生れて始めて生活する所は、云ふまでもなく家庭であるから、かやうな家族主義の下に立つて居る家となる子女は大に幸福なるものと云はねばならない。そこで長者に對する服従心尊敬心なども養ふ事になる、其

二は、此主義のもとに立つて生活するものは、自ら特種的精神を養ふ事になる。何に致せおのが家族おのが家と云ふものが大切であると云ふ事が常に教へられるのであるからして、家の爲め家族の爲めには我を擲<sup>なげ</sup>たねばならないといふ氣象精神を養ふ事になるのである。此の特種的精神をすつとおしひろめて來ると、忠君とか愛國とか云ふやうな國家道德の根底なるべき道德心となるのである。

その三は、家族主義の行はれる國家の人情風俗は如何にも淳厚なる事である、と云ふのは、どこまでも己の長者を敬ひ老人を尊び、ひいては幾代もの祖先にも溯つて、その恩義を感謝する事を教へられるのであるから、かやうな家が組み立てる國家が自然淳厚なる風俗習慣を有する事になるのは、少しも不可思議でないのである。

個人主義の特色と家族主義の特色とは、大體上に述べたやうな次第であるから、此の兩主義のもとに立つ生活がいろ／＼の衝突、いろ／＼の波

淵を生じて來るのは當然の理である。此の際我々は果してどちらに従ふべきであらうか、個人主義に従つて行動すべきであらうか、乃至は家族主義の方に組みすべきであらうか、これはたしかに我々の目の前に横はつて居る大なる疑問である。我々は有形に無形に、西洋の文物の取り込まれた社會國家に生活して居る以上、知らず／＼よほど個人主義的になつて居るのである。が父あり母あり祖父あり祖母あり、下つては妻もあり子もあつて、遠い祖先から何代となく歴史的に發達し來つた家の中に住んで居る以上、少しも家族主義の精神を顧みないと云ふわけにいかない、況してや、我が日本國は、國を建て、此のかたの家族主義であつて、國家が今日まで此主義のもとに存續し來つたものである以上は、少しも此主義に對して考へる事のないといふ事は出來ない、こゝが此の兩主義の調和を是非はからねばならない理由の主なるものである。

さて、此兩主義の調和は之をどうすればよろしいかと云ふに、之には種々さまざまの方法があると思ふ。まづ家の内外にわけて考へて見ると、家中では父母長者が其頭に、家族主義から來る所の種々の弊害をおいて其子女に對するといふ事が、その一つの方法と思ふ。家族主義の生み出す弊害には種々様々あるが、その主なるものは、恰度前に述べた個人主義の特色の裏をゆくものであつて、子女の人格の價値を認めない事の如き、従つてその意志を尊重してやらない事の如き、また何もかも、父母長者が干渉して徒らに子女の依頼心を増長する事の如き、その主なるものである。その干渉の甚だしい例は、かの家風とか云ふものを笠に着て舅姑が新婦にのぞみ、甚だしきは所謂生木をさくといふやうな場合にも立ち至る事である、また祖先を重んずるの結果自ら保守思想を養ふて、日に月に進みゆく時勢の進運におくれるといふやうな事も、たしかに此の主義の生み出す惡

弊の一つである。ついでには父母長者なるものは子女に對して、特に相當の年齢に達した時には、其自重心を尊重してやつて、たとへば訓戒を與へる場合の如きも、どこまでも、その名譽心を傷けない程度に於てし、其子に嫁を迎へたと云ふやうな場合には、あまり新夫婦の生活に容喙しないやうにしたり、またいたづらに其子女を愛するあまり、其度が過ぎて其進取の氣象をおさへつたりせぬ事もまた大切な事と思ふ。かやうな考で、父母長者が其子女に對してゆけば、自然と家庭内に於ては、家族主義と個人主義の調和がのみこまれはせぬかと思はれる。

次に、家の外、委しくは學校に於て、廣く社會到る所に於て、各當路者が心得べき事があると思ふ。それは恰度家族主義の場合に述べた通りに、個人主義の生み出す弊害をその頭において、學生なり、一般人民なりにのそむ事である。個人主義の伴ふ弊害も隨て多くあるけれども、その主なる

ものは、個人を重んじ人格を尊ぶ所から、何事も自己中心となるといふ事である。自分の都合さへよければ他の利益をば少しも顧みないと云ふ態度即ち之れである。従つて此の主義のものとに生活するものは、往々にして無規律に流れるやうになる。かの學校や經濟界に於けるストライキのやうなものは、其原因をこゝに有して居るのである。

西洋に行はれるといふ恐ろしい社會主義とか虛無主義とか云ふやうな、恐ろしい運動もまた此の泉から流れ出る流れに外ならないのである。ついでには、教師が兒童に接する場合にもまた企業家が労働者傭人に接する場合にも、官吏が一般人民に接する場合にも、一方に於て是等の人々の人格權利を尊重すると同時に、他方に於て服従の美德なる所以、共同精神の社會國家に立つものに取つて是非缺くべがざる理由を教へて、一定の規律のもとに、自由なる、活動を營み、規則法律の價值を認めつゝ自主獨立の生活を遂げさせるやうにせねば



ならない。此點から考へると、我が國の法律も政治もまたよほど改良の餘地の存して居るといふ事

は、夙に識者の口にし筆にする所である。

(文責在記者)

## 子供が物を口へ入れる癖

宮 本 仲

子供には、口の中へ物を入れる癖のあるものです。

指をくわへる、おもちゃをしやぶる、袂をかじる、これは子供の天性で、母の乳首をはなれた口の中がさびしいので、いろいろの物を入れて居る事が其精神を慰めるのでせう。

しかし、これは大層危険な事です。此の何でもかまはず甜める事はいろいろの病氣の原因になりやすい、甜める物品に附着して居る微菌を吞み込むので咽喉の病氣にかゝつたり、猩紅熱やデフテリアや種々の傳染病にかゝつたりする。それで此の癖は嚴重に矯正しなければなりません、育て

やうによつては此の癖をつけずにすまず事が出来る、母か乳母がついて居て嚴重に注意すれば、口の中へ物を入れぬやうに育てる事が出来ます。たとへば、乳をのませる、飲み終ると同時に乳首をはなしてしまふやうにする。口もとがさびしくて指をなめたりする時は、指に、害にならぬ苦い薬をつけるとか、はつかをつけるとかして之を禁制すると云ふやうにするのです。かう云ふ風に育てた結果宅の子供は幸に、一人も口の中へ物を入れるものはありませんでした。

幼稚園などで土いぢりをして、土の中にある腐敗微菌に原因した大腸かたるなどを起す事があ

る。或はおもちやについて居た微菌をのみ込んで扁頭線がはれて化膿したりする事もあります。

それで人間最初の教育の行はれる家庭に於て、両親が云ふてもきかせ、實行もさせるやうにしなければならぬのはもとよりですが、幼稚園あたりでも先生がよく注意して、口の中へ物を入れる事は嚴禁しなければなりません。

口の中へ物を入れる癖があると、前に述べたやうな弊害があるばかりでなく、過つて之を嚥下するといふ事が出來ます。甚しい例を云ふと碁石をのむ、おもちやの鈴をのむ、五厘、一錢の銅貨をのみ込む、安全ピンをのみ込んだのもありましたまたある子供は豌豆をおもちやにして居て五つ六つのみ込んだ。そしてその豌豆が、折ふしその子供の患つて居る脱腸の中へ這入つて行つて、だんく膨脹したので、其脱腸はどうしてももとの場所におさまらない。仕方がないから手術をして見ると、その中から大きくふくれて既に芽をふいた

豌豆が數個出て來た事があります。胃の中で消化せられなかつた豆が腸の中に来て、そこにある適當の濕氣と溫度と肥料の爲めに遂に芽をふいてもやしになつて居るのです。木の實をたべると腹の中に木が生えるなど云ふのも、からうそでないのかもしれない。

たゞに微菌の嚥下のみならず、かうした危險が伴ふのであるから、物を口の中へ入れる習慣は絶對につけぬやうにしなければなりません。

萬一過つて物品を嚥下した場合の處置も錯誤のないやうにしなければなりません。なま療法はやらぬやうにしなければなりません。たとへば釘をのんだり安全ピンをのんだりした場合、遽て、指を咽喉につゝ込んだり、吐劑をかけたりして之を吐出せしめやうとあせるなどは非常に危険なのであります。嘔吐せしめるのは胃を絞る事になるのであるから、さきの尖つたものなどは、その際胃を突き破るやうな事になります。それと同時に下劑を

かけてはならない。反對になるべく液體の食物を避けて、薩摩芋でも、じやが芋でも野菜類でもなるべく大便に多くなるものを食べさせるやうにするのがよい。其理由は大便が腸の中を通る時、固いものほど中に包まれる性質をもつて居るのであるから、のみ込まれた危険物は便の中にくるまれて外に押し出される便宜になるものです。此際牛乳なども禁じなければいけません。そしてよく大便をしらべて居る事が大切です。第一回の便に出てしまつて居るのに氣が付かないで、いつまでもおさつなどばかり食べさせては罪になります。

口に物を入れる癖をつけておくとかういふ危険を惹起しますから、必ず此の惡癖をつけぬやうに注意の上にも注意なくてはなりません。しかし此の癖を矯正するのに、子供に恐怖心を起さすやうな事をやつてはよろしくない。私の知つて居る大變神經質の子供があつた。そして此の子は指を

なめる癖をもつて居た。此子の通つて居る幼稚園の先生が、其の癖をなほさうと思ふて、「そんなに指をなめると死んでしまいます」といつて叱つた。それを聞いて以來子供は非常にふさぎ込んで居たが、間もなく近所から葬式が出た。之を見た子供は死ぬるといふ事は土の中へは入つてしまふ事だと考へ、自分は指をなめたからそしてその外におもてやも甜たし、御飯を食べる時茶碗を甜めたから死んでしまふのだと云つてぼろ／＼涙をこぼしたり、非常に神經が高ぶつて困つた事があります。ですから注意をする場合に氣をつけて、えらい人は指なんかくわへないとか、お行儀のよい人は缺なんかかちるものでないとか、なるべく教育にもなり獎勵にもなり訓戒にもなるやうに説諭して此癖を矯正するやうにしたいものであります。

(文責記者)

## 夏期に於ける幼児の睡眠時間

京都豊園幼稚園 司馬のぶ

### 一 はしがき

身心の發育に運動や營養の大切な事は申すまでもありませぬが睡眠の重要な事は一般世間の人に案外注意されて居ないやうに存じます。子供でも一週間位絶食したからとて大抵死ぬものではありません。そのために蛋白質や脂肪が著しく消費されるので標準體重の四分の一を失ふ位に止るさうです。然るに睡眠は到底そんなに長時間に堪へる事は不可能です。動物に對して人爲的に睡眠を妨止すると非常なる疲勞の極大抵二三日で死ぬ

さうです。併し途中でよく睡眠させると全く恢復すると云ふ事です。これは睡眠が生理的方面に大なる影響を及ぼす一例ですが尙社會の生産的方面にも余程關係する事を考へたいと存じます。世間には朝寢する人も朝起きの好きな人もあります。又睡眠時間の長い人も短い人もあります。そこで之等の人々の仕事の能力には如何なる差異があるかと申しますに朝起きの好きな人は就眠後短時間の中に充分深く眠りに入りますので就眠が遅くして尙朝早く起きてても仕事の能力に殆んど何等の影響がありませぬが、これに反して朝寢の人は就眠時間を遅くしても大した影響は及ぼさないが、朝

の起床時間を早くすると仕事の能力が減退するといふ事です。又睡眠時間の長いものが必ずしも身心の發育が全長で仕事の能力が盛であるとも限りませぬ。故にもし身心の發達又は健康に何等の障害もなく、一日に一時間を節減し得るならば、一生を通算して生産上莫大なる利益となるでせう。勿論各個人には一日の疲勞を恢復さすに要する、睡眠時間の限度が有る譯ですから家庭の状況や周囲の事情によつて、この限度を妨害せられぬ様にとめたいと存じます。故に幼児の標準睡眠時間を調査して我々は家庭の父母と共に、幼児の身心の發育程度に適當したる時間だけ有効な睡眠をとらして、健全なる發育をなさせたいと存じますので、我が園児の標準睡眠時間を定める參考として文學士檜崎先生に御指導をうけて、幼児が正當の狀態に必要な睡眠時間を調査して見ました。

## 二 調査方法

園開園中の兒童は幼稚園に参りますため、幾分か睡眠時間に制限を受けてゐないとも限りませぬから、私は成るべくそんな制限を受けない時のものを知りたいと思ひまして、幼児が自分に必要なだけの睡眠を自由に充分に取つてゐます夏期休暇中の、幼児の睡眠時間を調べました。

其方法は、次の様な調査用紙を熱心なる家庭及び當園出身の教育ある父兄に配付いたしました、之に幼児の就眠起床の時間を毎日記載してもらつたのです。毎日之を記入することはなかなか面倒なものです、これにも係らず父兄諸氏は誠に綿密に毎日御起入下さつたことは深く感謝してゐます次第であります。觀察記入下さつた日は八月一日より八月末日まで約三十日でありまして幼児の人数は五十六名であります。人数はまだ之でも不十分ですが、調査日数は一ヶ月ですから、調査した幼児だけにつきていはばかなり正確なものと思つてよろしいでせう。

組

日				夜			
就眠時刻				就眠時刻			
起床時刻				起床時刻			
睡眠時間				睡眠時間			
一日中				睡眠時間計			
月	日	午後	午前	午後	午前	午後	午前
一	日	時	分	時	分	時	分
二	日	時	分	時	分	時	分
三	日	時	分	時	分	時	分
以下三十一日ニ至ル							

かくて得ました資料を整理いたしますのに先づ各児の三十日間の平均就眠、起床睡眠時間を算出し、更に之を男女年齢によりて組別けし各組の平均就眠起床、睡眠時間を計算いたしました。又之等に對する平均錯差も出しました、平均錯差は二

方ではこの平均の價の信用の度を示し他方では個人差を現はします。夜の睡眠と共に晝寢も亦同様の方法で調査したのです。今其結果を數字及び曲線にて示しますと次の通りであります。

# 夜ノ睡眠調査

第一表

年 齡	人 員	就眠時刻		錯 差		起床時刻		錯 差		睡眠時間		錯 差	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
I	2	時 分 8. 6	時 分 8.47	分 分 27 32	分 分 27 32	時 分 6.58	時 分 6.56	分 分 34 22	分 分 34 22	時 分 10.52	時 分 10. 9	分 分 56 39	分 分 56 39
II	4	9.20	9.39	38	25	6.36	8. 8	25	39	9.15	10.29	51	34
III	2	8.39	8.35	24	18	7. 9	6.23	12	10	10.30	9.47	26	17
IV	5	8.42	9.59	1. 7	45	6.29	7.28	20	34	9.47	9.30	49	56
V	5	8.45	8.41	30	38	6.25	6. 8	20	25	9.40	9.27	32	42
VI	13	8.59	9. 8	33	21	6.37	6.31	27	27	9.38	9.23	37	32
VII	16	9. 2	8.49	32	44	6.29	5.42	25	28	9.26	8.57	42	36
VIII	4	8.51	9.48	36	25	6.11	6.14	32	17	9.20	8.26	38	25
IX	2	8.57	9.13	24	22	5.43	5.26	22	1.17	8.48	8.14	24	31
X	3	9. 4	9.31	22	30	6.27	6.30	19	25	9.23	8.59	26	31
平 均		8.50	9.12	33	30	6.30	6.33	24	30	9.40	9.20	38	33

# 晝ノ睡眠調査

第二表

年 齡	人 員	就眠時刻		錯 差		起床時刻		錯 差		睡眠時間		錯 差	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
I	2	時分 0. 7	時分 3.24	時分 1.52	分 36	時分 2.28	時分 8.59	時分 1. 9	時分 1. 3	時分 2.21	時分 5.35	分 45	時分 1.17
II	4	9. 3	0.50	1.27	49	12.16	5. 8	18	1.24	3.13	4.18	28	12
III	2	1.36	2.25	29	58	2.48	4.23	19	54	1.12	1.58	19	19
IV	4	2. 4	2.41	32	28	3.45	4.30	33	19	1.41	1.49	27	32
V	1		2.53		37		4.54		41		2. 1		26
VI	6	2.10	1.53	34	15	3.49	3.32	42	24	1.39	1.39	32	20
VII	5	2.26	1. 6	54	12	4.20	2.50	55	33	1.54	1.44	25	25
VIII	1	4.13		2.32		5.33		2.19		1.20		10	
IX	0												
X	1		1.40		20		3.45		5		2. 5		25
平 均		3. 6	2. 7	1.11	36	5. 0	4.46	1. 1	47	1.54	2.38	20	36



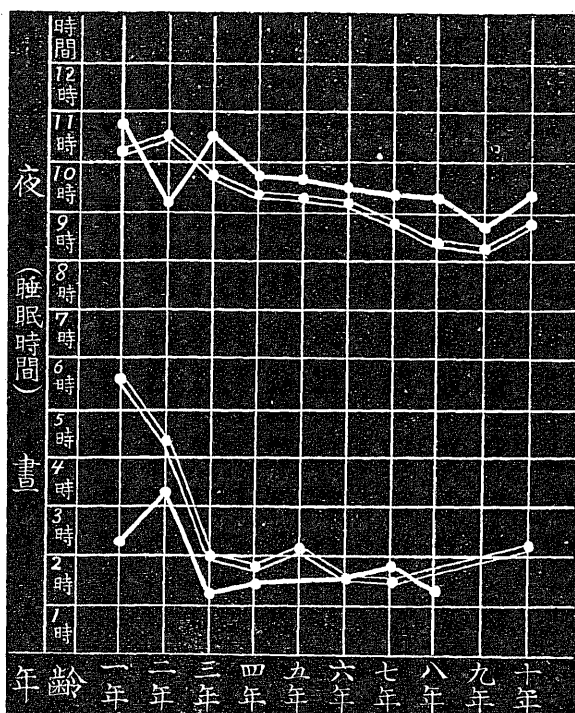
# 夜ノ睡眠時間最長最短調査

第三表

年 齡	人 員	就眠時刻		錯 差		起床時刻		錯 差		睡眠時間		錯 差	
		最モ早キモノ	最モ遅キモノ	最モ大ナルモノ	最モ小ナルモノ	最モ早キモノ	最モ遅キモノ	最モ大ナルモノ	最モ小ナルモノ	最モ長キモノ	最モ短ナルモノ	最モ大ナルモノ	最モ小ナルモノ
I	2	時 分 8. 6	時 分 8.47	分 32	分 27	時 分 6.56	時 分 6.58	分 34	分 22	時 分 10.52	時 分 10. 9	分 56	分 39
II	4	8.30	10.12	47	25	5. 1	8. 8	45	4	10.29	8.30	59	34
III	2	8.35	8.39	24	18	6.23	7. 9	12	10	10.30	9.47	26	17
IV	5	8.25	10. 2	46	35	6.11	7.42	43	12	10. 3	9.12	18	44
V	5	8.24	9.13	44	16	6. 0	6.38	31	9	10. 6	9. 6	49	17
VI	13	8.15	9.47	37	10	5.37	7.14	40	11	10.12	8.28	49	20
VII	16	7.49	10. 5	1. 0	19	5.31	8. 6	40	11	10. 1	8.54	56	14
VIII	4	8.38	9.48	45	22	6. 3	6.17	41	17	9.27	8.26	43	25
IX	2	8.57	9.13	24	22	5.26	5.43	1.17	22	8.48	8.14	31	24
X	3	9. 4	9.45	33	22	6.26	6.33	29	19	9.23	8.49	37	26
平 均		8.28	9.33	39	22	5.57	7. 3	39	14	9.59	8.58	47	26

第四表

# 睡眠時間男女比較曲線



備考 一線ハ男 二線ハ女

## 三 結果

(一) この睡眠を調査いたしますにつきまして、なるべく正確な時間が得たいと存じましたので、最も

(二) 睡眠時間の平均を男児に就きて見ますと、一歳の男の十時五十二分であります。最も遅いのは二歳の女の午前八時八分であります又睡眠時間の最も少ないのは九歳の女の八時十四分でございます。最も多いのは一歳の男の十時五十二分であります。

熱心にして下さりさうな家庭を選びましたため多数の児童についてしるべる事が出来ませぬでした殊に直接只今幼稚園に關係のない児童はまことに少數の調査に止まりますので、たしかな標準になります様な数は得られませぬでしたせうが表にあらはれましたものによりますと、就眠時刻は最も早いものが一歳の男の午後八時六分で最も遅いのは四歳の女の同九時五十九分でございます。次に起床時刻は午前五時二十六分が最も早いので之が九歳の女でございます。最も遅いのは二歳の女の午前八

より三歳までは約十時間乃至十一時間眠りますが四歳になりますと約一時間を減じまして八時間半位になります。それから八歳までは少しづつ減じますけれど大差はありません。(第四表参照)所が九歳からは少し減じ方が多い様です。女児も男児も一般の傾向は大差ありませんが唯睡眠の絶対時間が少し少いだけです。第四表を御覽下さい。男児の全體の睡眠時間の平均が、九時間と四十分でありますのに對しまして、女児の平均が九時間と二十分になり男児と女児との差が二十分になりますのを見ますと、幼いうちから矢張男児の方が睡眠の時間が多いのでございませう。

又睡眠時間の錯差の平均が男児三十八分女児三十三分となつて居ます。その差の五分表れてゐますのは、つまり男児よりも女児の方が、睡眠時間の不同が少いためでございます。

(三)晝夜睡眠時間の關係男女比較曲線によつてしらべて見ますと、三歳の男児は夜の睡眠が非常に多

く上つて居りますが、晝の睡眠は少なうございす。次に同じく二歳の男児は夜の睡眠が非常に少なうございますが、晝寢の時間はずつと上つて多うございます。三歳の男児は又夜の睡眠時間を長くし、晝寢が少なうございます。この様に夜の睡眠が少なければ、晝寢が多くなりますし、大抵平均しますと同じ程の睡眠時間となりますのでございます。

(四)睡眠と握力との關係が見たいと存じましたので右に掲げました一歳より十歳までの兒童の睡眠時間の平均を標準にして、睡眠時間の多いものと少いものゝ二種に分ちまして、その握力の平均價を肝にて示して見ますと、

睡眠時間の多きもの 睡眠時間の少きもの

男 五、〇 肝 三、八 肝

女 一、六 肝 二、六 肝

の様になります。

これによつて考へますと、男児は睡眠時間の多

いものほど握力も強うございますし、女兒は男兒と反對の現象があります。其何故であるかはわかりませぬが、しかし睡眠時間は前表のごとく男兒か女兒より多いのを見れば、男兒の睡眠は女兒の場合よりも關係が深く、従つてその幾分を減少せらるれば直ちに全體の精力に影響を及ぼしたために握力も減少するのではありますまいか。

又女兒の睡眠時間の少きものが握力の強いといふのは、睡眠と深い關係ある氣質のためではありますまいか。後日此の點を明にして見たいと思つてゐます。

#### 四 所 感

(一) 昔から寝る子はまめなと申しますが、實際よく寝る子は大抵は健全な様です。又阿房の寝狂とか申しまして、餘り寝過ぎる子は心がぼんやりして精神作用が鈍い様に思ひます。睡眠が不足な子は氣力も體力も衰へて居ます。成るべく標準を定め

て適當な睡眠をとらす事が肝要で有ると存じます(二) かゝる調査を成るべく廣く精密に行ひ以て其地の方に於ける幼兒の就眠起床の時刻標準を定めて適當な睡眠時間を取らせる様にし、又一般の家庭に於ても幼兒の睡眠時間に注意なさる様にしたいと存じます。

(三) 晝寝する幼兒とせぬ幼兒とにつきて、身心に及ぼす差異を調査して保育上に資したいと存じます(四) 往々幼兒の中に睡眠不足のために消化不良を起し、身體を害して居るのがあります。或はこれがために神經過敏となり、又は神經衰弱を起し憂鬱性となるものもあります。異常兒は殊に睡眠の關係が深い様に思ひます。

(五) 兒童には幾時間の睡眠を與へてよろしいでせうか。又はたびたび爭論せられます問題でございませう。巴里に於て調査せられましたところによりますと、五十六人の數學者中四十五人は八時間或はその餘の睡眠時間を要し、十一人は六時間乃至七

時間であつたと申します。兒童は疲勞回復の外に更に心身の發育をいたしますため、成人に比べまして一層多くの睡眠が必要でございます。兒童は睡眠中に發達いたします。睡眠の長さとし長の強さ殊に大腦半球の發達との間に著しき平行がございます。自然の必要なる要求は必ず充分に満足せしめねばなりません。この意味に於て兒童の睡眠は神聖なものでございます。父母は例へ學校の時間に後れても熟睡した兒童の、神聖なる權利を犯さぬやう、また教師も其遅刻を責めてはなりません。熟睡の十五分は極めて有効な學校課業の、數時間に比べまして彼の心身を發達させます度は、其幾倍であるかわかりませぬ。個性境遇の異つて居ります兒童を一律に律しまして、毎朝一定の時間に、起床なさしめますのは兒童の眞の必要に適應せない學校教育の獨斷的要求であります。

本調査は弊園全保の協力調査いたしましたものですけれども簡便のため私の名で報告いたします。

### ○厚著と薄著

(醫學士 原田達三氏述)

寒くなりますと、子供の呼吸器病、たとへば肺炎が澤山に殖えて参ります。そこで家庭では風引きを恐れて、ややもすると子供に厚著をさせる傾きが御座います。私の最近に見ました一例は生後一ヶ月餘の子供ですが、「ネル」の襦袢を二枚著せ、其間に眞綿を入れ、其上に綿入れを二枚著せ、又其上から袖なしを着せ、襦袢は木綿を下にして「ネル」で巻き、又綿入れの襦袢を着せ、著物の上から毛布でまき、其上から又布圍で熨斗の様に包みましてそれをおぶつて参りました。その子供を着物の紐を解いて見ますと、汗が澤山に出て「ネル」の下に流れて居まして却て風邪を引かす様になつて居りました。そこで母親にあまり厚著であるから、もう少し薄著になさいと申しますと、その母親はそれではどの位が普通ですかと尋ねました。この母親の質問は當然のことでありまして、少しく子供の事に注意なさる方々に必ず起るべき疑問だと存じます。實は是に就てまだ確な標準は定まつては居りませんが、日本でも外國でも今それを研究しつつあります。私も昨年からはらべて居りますが、この標準をきめますには子供の體質によつても異なりますし、綿入れにしても厚い薄いがありますし、日

によつて氣温もちがひますから、明確に定めることは非常に困難であります。

人間が著物を著て、恰度暑くもなく寒くもない心地であると云ふ温度をしらべましたのは佛人モーレルと云ふ人でありました。そして其温度を生理的の零點或は正温又は中温と名づけました。其方法は湯に入れ、其人の恰度よい湯の温度をはかり、それを其人の中温といたしました。其温度は大人に於て攝氏三十一度乃至三十二度ありますが、これは佛人のでありますから日本人はこれとはちがひます。平井博士は日本人（大人）の中温をやはり湯によつてしらべましたが、日本人は暑湯すきで攝氏四十三度内外で、殊に昔から江戸子は大變暑い湯がすきですが、そんな人の好む湯の温度は攝氏の五十度以上だそうです。子供にはどの位が中温であるかと云ひますと攝氏四十一度乃至四十二度の湯が適當して居るさうです。之は裸體でお湯に入れたそのお湯の温度でありまして、著物を著た場合にはどうかと云ふに、これはだれも同じと云ふわけには参りません。そこで私は平井先生の用ゐられた方法と同じ方法、即ち木の筒のまばりに穴をあけその筒の中へ留點寒暖計（水銀が昇れば下らぬもの）を入れたものを、脊の皮膚と肌膚或は襦衣との間に三十分程入れて、そのまばりの空氣の温度をはかりました。そして當時の子供の呼吸、脈搏、顔

貌、發汗の有無、機嫌の良否、室温等を參考しまして、凡そ其中温と見做すべき温度を測定いたしました。斯様にいたしますと小さい子供程中温が高うございます。外國人は足や股でもはかつてありますが、日本人は著物の都合が悪いので、外部の空氣の温度になり易い爲め、脊ではかるのが一番よろしい御座います。私の調べました子供の數はまだ甚だ少うございますので、平井先生の調べられました結果と私の調べました結果とを一緒にして、唯御參考迄に申し上げますと

初生兒 攝氏三十五度五分

六ヶ月迄 同 三十四度

六ヶ月以上一年迄 同 三十三度二分

一年より二年まで 同 三十二度五分

三年より五年迄 同 三十一度—三十二度

七年より十年まで 同 二十九度五分—三十度

十年より十五年迄 同 二十五度五分—二十九度五分

この表はまだ確定したものとは申されませんが、併し著物を何枚著せましてもこの表の温度附近でありましたならば、甚だしい厚著ではなからうかと思ひます。モーレルは夏を除けば中温は春秋冬とも同様であると申して居ります。（『兒童研究』第十八卷第七號より）

『ピッブ』の話 (デッケンス) (一)

|| 英文學に現はれたる子供(二十六)||

岡田みつ

僕は苗字がピリッブ、名がフヒリッブと云ふのであるが、廻らぬ子供の舌で兩方を合せてピッブとよりは言へなかつたので、とう／＼ピッブといふ名で通つてしまつた。

僕は父も母も見つた事がない、その寫眞さへも見つた事がないので、二人の墓石から想像してこんな人でもあつたらうかと思つて居た。父の墓に彫り付けてある文字の形からして、父は四角張つた、<sup>ふとろし</sup>肥肉の色黒の人で、縮れた黒髪であつたらうと思

ひ、母は病身で「そばかす」のある婦人だつたらうと思つた。兩親の墓の傍に並んで居る五個の小さい墓は、皆僕の兄弟達のであつた。

僕の田舎は、河の近くの沼地で、海からは二十哩位しか隔たつて居なかつた。僕が周圍の事物を

明瞭と心に印象したのは、忘れもせぬ或るいやに冷たい夕方近くの事であつた。此墓麻の生ひ茂つて居る、そら淋しい處は墓場で、自分の父も母も兄弟もこゝに埋まつてゐて、それから墓場の向ふの暗い平らな原は沼澤で、そのまた先の鉛色の低い線が河で、風の吹いて來るあの遠くの物凄い處が海で、かうやつて身を慄はせて恐がつて、而してしく／＼泣いてゐるのは、ピッブ即僕自身であると思覺した。

「靜かにしろ！」と御寺の入口の横手にある墓石の間から男が一人跳り出て來て、怒鳴つた。「靜にしろ。この野郎 さもないと殺してしまふぞ。」

見るから恐ろしい男であつた。龜末な鼠色の着物で、足部に太い鎖が付いて、頭は帽子がなく

唯古市が巻き付けてあり、足には破れ靴が簞つてゐた。水に浸り、泥に塗れ、小石に躓き、尖り石に擦り剝かれ、蕁麻に刺され、茨に突かれたと見え、其男は跛引き／＼身體を慄はせ、怖ろしい顔をして睨視み付けた。僕の顎の邊を引摺みながらも、彼は寒いか、齒の根をガタ／＼いはせて居た。

「殺しちやいやです。何卒それだけは止して下さい。」と僕は怖くて、ひたすら頼んだ。

「何といふ名だ。早くいへ。」と男は言つた。

「ビツブ」

「え。も一度。はつきり言へ。」と睨めながら男は言つた。

「ビツブ、ビツブといふのです。」

「家は何處だ！方角を指して見ろ。」

僕は此の御寺から一哩そこら離れてゐる僕の村の方を指した。其男は暫時僕を熟と視てゐたが、急に僕を逆まにぶら下げて、衣囊の中を空虚にした。衣囊には無一物で、唯バンの鉄片があつた。

御寺がやつとあたり前に眞直に見えたと思つたら、もう其男は、餓鬼のやうにそのバンを噛つてゐた、僕はブル／＼慄へながら、丈の高い墓石の上に坐らされてゐた。

「オイ、小童奴。貴様は丸々した頬をしてゐるな。」と唇を甜めづりながらその男が言つた。

其頃僕は年よりも身長が少なくて、身體も強壯では無かつたのであるが、頬はまる／＼して居たと思ふ。

「本氣になりや、噛り取つてやれない事もない。」と今にも實行しさうに首を振り／＼その男が言つた。

僕はどうか止してくれと一生懸命に頼んで、腰を掛けさせられてゐる墓石に、しつかりと摺まつてゐた。

「こら、よく聞け。貴様の母親は何處にゐる。」  
「彼處に。」

男は愕然として小走りに走り退いて、一寸立停



まつて、肩越しに見かへつた。

「あすこです。あれが僕の母さんです。」と僕は恐る／＼説明した。

「あゝさうか。それに並んでゐるのが貴様の親父か。」

と男は戻つて來て問ふた。

「えい。あれがさうです。」

「フーン」と考へ込んで、「では誰と一所にゐるんだ。假りに己が貴様を生かして置いてやるとしてだな。まだ生かして置くか如何だかはつきり決心しないのだが」

「僕の姉さんです。ジョーガージュレーツといふ鍛冶屋の妻君です。」

「鍛冶屋か」といつて彼は自分の足を眺めた。

自分の足と僕とを交互に視て、やがて彼は僕の傍へ寄つて來て、兩手で抱き上げながら、精一杯仰けに向けた。であるから、彼の眼がまともに僕を見下ろすと、僕は厭でもその男の眼を見なければならぬやうな工合であつた。

「さ、よく聞け。貴様の命に關はる事だぞ。鑢ッてもものを知つてゐるだらう。」

「はい。」

「食ひものッてもものも知つてゐるだらう。」

「はい。」

一句言つては、彼は僕を仰向けにして、僕を尙更途方に暮れさせた。「鑢をもつて來い。」と言つて一つグツと僕を反らせ、「食物を持つて來いよ。」と言つて、亦一反り兩方とも持つて來いよ。」といつて亦一反り、「さもないと内臓を引抜くぞ」と言つて亦反りさせた。

僕は恐ろしさは恐ろしいし、目がまはつて仕方がないので、兩手で彼に縋り付いて、

「僕を眞直にさへして下されば、心持がよくなつて、もつとちやんとあなたの言ふ事を心に止めて聞かれます。」といった。

彼は、こんどは思ひきり烈しく僕を反らせたの

で、御寺が翻筋斗<sup>うんはがへ</sup>りをするやうに見えた。其からその男は僕を双手に抱へて、墓石の上に坐らせて、恐い文句を並べた。

「貴様、明朝早くその鏝<sup>やすり</sup>と食物とをおれの處へ持つて来るのだ。向ふに見える古砲臺へ其を持つて来るんだ。貴様がその通りにして、而して人に向つて、おれと逢つたといふ事を、言葉では勿論、様子にでも出さなければ、生かして置いてやるが、さもなくして、今言つたものを持つて来ないか、それとも今言つた事に一寸でも違つた事をすれば、貴様の内臓を剥<sup>はぐ</sup>り出して、炙<sup>や</sup>いて食つてしまふぞ。貴様は、己れを一人ぼつちと思ふかも知れないが、そうではない。もう一人若い男が己と一所に居るんで、其奴<sup>そいつ</sup>に比べれば、己なんぞは佛様見たやうだ。その男は、己が今言つてゐる言葉を聞いてゐるぞ。而してそれは貴様のやうな子供を捕へて、心臓だの肝臓だのを引出す秘術を心得てゐるんだ。其奴な

ら逃げやうたツて、とても逃げられない。寢室の戸に錠を下して床に入つて、夜着を引被ぶつて、而して、もう、これで大丈夫だと思つてゐても、その人はそいつと入つて来て、腹を割いてしまふ。己れは今大骨折りで、其奴が貴様の困らせないやうにしてゐるのだ。其奴が貴様の内臓に觸らぬやうにと氣を揉んでゐるんだ。さ、どうだ。」

僕は鏝も持つて来ませう、食物も手に入るだけ少量ながら持つて来ませう、而して明朝早くその砲臺で渡しませうと言つた。

「もし其に背けば、天罰忽ちに降<sup>くだ</sup>つて死にますと言ひなさい。」と男が云つた。

僕はその通りに言つたので、男はやう／＼僕を下ろして呉れた。

「さあ、貴様は請合つて事をよく覚えてゐろ。あの若い男の事もよく覚えて居ろ。さ早く行け。」

「さ……さやうなら。御休みなさい。」と僕は吃りく挨拶をした。

男は平らな湿つばい原を見渡して、

「御休みなさいか！蛙かそれとも鰻うなぎでもあればさ。」と言ひく身を窄すはめて、御寺の低い塀の方へ跛引きく歩み去つた。

僕がその後を見送つて立停つた時は、原は唯長い黒い横線よこぐしに見えた。河も亦一條の横線をなしてゐたが、原のほどに黒く太くはなかつた。空にも、長い眞紅の線と、眞黒の線とが入り交りに幾條も並んでゐた。見渡す限りの中に、眞直に立つてゐるものは唯二つあつてそれが微かに黒く輪廓だけを示して居た。其一つは燈明臺で、も一つは、絞殺臺であつた。今の男は、この絞殺臺の方へ跛引きく行くので、僕は、以前此處で殺されたといふ海賊が、蘇生して、臺から下りて、今又其處へ戻つて行くのではないかと思つた。さう思つたら、急に怖氣を催して來た。僕は彼の後を默然と見送

つてゐる牛の群がやつぱりそんな事を思つて居るかしらむと想像しながら、あの怖ろしい若い方の男は、どこに居るのだろうかと思つたが、其らしいものも居なかつた。兎に角、恐くてたまらないので、一目散に家へ走せ歸つた。

\* \* \*

僕の姉さん即ジョー、ガージエリーの妻になつてゐるのは、僕よりも二十何歳も年長で、僕を「手で育てたといふので、自分も得意なら近所でも評判であつた。僕は其れが如何いふ意味だかと獨り考へて、姉さんの手は硬かたい重い手であるし、その手をよく僕にも又自分の夫にも加へるから、其れで大方僕と義兄さんとは「手で育てられた」といふのだろうと思つて居た。

姉さんは姿色きやうしきは良くなかつた。義兄さんは色が白くて、滑すべくの顔で、ごく呑氣な、御人よしの惡氣にくのない人であつた。姉さんは、黒目、黒髪であんまり顔や何か赤いから、僕はよく姉さんは石

鎧よろしを使つかはないで、鏢器はたで皮膚そりみを擦磨すりくのではないかと思つた。姉さんは丈が高く骨つぼくて、大方年中前掛けで、而して胸の處にビンや縫針を一抔さ挿した四角な胸當むねあてをしてゐた。さういふ身形みなりであるのを大變な功績てがなのやうに心得て、夫が能力はたらきがないから、かうやつてゐると面當つらめかしく言ふのが癖であつた。

義兄の鍛冶工場は、住宅に接してゐた。僕が墓場から驅け戻つて來た時には、工場は、もう閉しまつてゐて、義兄のジョーは臺所に獨りで居た。ジョーと僕とは同じ境遇に惱んでゐるといふ譯で、御互に心の中まで打明けて語りあふので、今日も僕が戸を明け、一寸顔を差し入れると、すぐにジョーは、

「姉さんがさつきから幾度も〴〵御前を尋ねてゐるせ。今も亦出て行つた處だ。」といつた。

「さうかい」

「さうだよ。御まけに「厄介物」を持つて出た

せ。」

この物恐ろしい報告を聞いて、僕は胸衣ちよふきに残つてゐる唯一つのボタンをひねくり廻して、落膽おちだんして火を見詰めた。「厄介物」といふのは一本の杖で、あんまりそれで度々打擲されるので、もう先が滑すべくくになつて居るのであつた。

「立ったり居たり立ったり居たりしてな、とうとう厄介物を引摺ひんで暴れ出ていつた。暴れ出たのだよ」と言ひながら、ジョーは火箸で爐格子の隙間から火を突き崩して「ね、ビンブ、姉さんは狂ひ出たんだよ。」

「もう先刻さうきかい」と僕はジョーを形かたちの大きい子供だと思はないので、同輩の待遇をいつもするのであつた。ジョーは時計を見上げながら、

「さうさな、暴れ出てから五分程になるな。オイ、歸つて來た！戸の蔭へかくれろ、小僧よ。」僕は、その忠告を容れた。姉は戸を明けやうとして、何か支へるものがあるので、すぐ其と推し

て「厄介物」を押し込んで小突き廻した。僕は、困つて、ジョーに飛び付くと、ジョーはいつでも僕を抱くのが好きなので、早速に僕を受け取つて火の前にかくまつて、自分の大きな脚を伸して、僕を囲み込んでしまった。

「今まで何處にいつて居た、猿めー」と、姉は足を踏み鳴らしながら怒鳴つた。「何處にいつて居たか、さつさと言ひなさい。人をよい加減心配させてー 早くいへ。さもないとその隅から引摺り出すから。」

「墓場にいつて居たばかりです。」と僕は立上つてめそ／＼と泣きながら答へた。

「墓場だつてー 私といふものが居なかつたら御前は疾くに墓場へ行つてしまつて居るのだよ。誰が御前を育てたのだい」

「姉さん。」

「ほんとにさ、何故御前見たやうなものを育てたか尋らないのかい。」

「僕は知らない！」と僕はべそをかいた。

「私にも分らないよ。もう之からかういふ事は決してしない。眞實に御前が生れてからといふもの、私やこの前掛を外した事がないといつても宜いのだ。鍛冶屋なんかの家内になるだけでも、澤山だのに、御前の親にまでなつてやるンぢやないか。」

僕は不平顔して火を熟視しながら、心は他處へ奔つて居た。沼地に鎖を足に付けてゐる落人氣味のわるい若者、鑊、食物、この家で竊盜をすると誓つたあの約定……が燃えてゐる火の中にあり／＼と見えた。

「ふん、墓場か、呆れるね。」と厄介物を元の處へ納めて姉はいつた。「御前達二人とも墓場なんて無造作に言ふがい。やがて御前達の御蔭で、私が墓場にまいられるやうになるんだらう。さうしたら、さぞまあ二人残されて慘な事だらうよ。」

姉は夕食の膳拵に取掛つた。ジョーは自分の脚部を眺めて、今言はれたやうな事件が起つたら、僕と二人でどんな様になるかと想像をしてゐる風であつたが、暫くあつて妻のする事を黙つて目で追掛けてゐた。妻の御機嫌のわるい時は、いつもジョーはかういふ態度をとるのであつた。

姉さんのパンの切り方といつたら、いつも變はつた事がなくチャンと定まつて居た。先、左の手にパンの一塊を堅く握つて、胸當に押し付ける。

其れ故時々針がパンに刺さつてゐて僕等の口へ入る事もある。其から、ナイフにバタを付けて、藥劑師が膏藥を伸ばすやうに、パンの上に擴げて行くのだが、ベタ／＼と巧みにナイフの兩面を使つて硬皮の縁邊りを撫でたり格好を整へたりして、最後にキユツ／＼とパンの端でナイフを拭いて、其からごく厚く一片を鋸引きにしながら、もうやがて二つに切り離れるといふ前に、其れを更に二片に分けて、二つをジョーに、一つを僕に呉れるの

である。

此日は、僕は御腹が減つてゐたが、其パンを食べる勇氣はなかつた。あの怖ろしい知己と、もつと怖ろしいその友達とに、何か取つて置いてやらなくはならぬと考へた。姉さんは、吝嗇で家内の取締りが嚴重であるから、戸棚の中に好都合のものなどが無いでもないもので、僕は、股引の中へパンを納めて置うと決心した。

さと、その決心を續けて行くのに、大變の努力を要した。僕は家根の頂邊から飛び降りるか、水の深みへ飛び込む時程の心組であるのに、何も知らないジョーが、更に事を面倒にさせた。前にも言つたやうに二人は同病者である上に、無邪氣な友達關係があるので、ジョーと僕とは、每晚パンを噛りながら、時々食べ掛けを互に見せ合つては又食べ續ける例になつてゐた。此夜も、ジョーは幾度か自分のパンを見せひらかして、食べつこの競争に入れ／＼と促したが、その度に、ジョーは

僕が茶吞茶碗を一方の膝に置いて、手も付けぬパンをもう一方の膝の上に置いてゐるのを見た。終に、僕は、定めた事を決行しなくてはならぬと思つて、それにはなるべく今の場合に適應した方法ですが上策と考へ、ジョーが一寸他處見をしてゐる間に、僕は自分のパンを股引の下へ押し込んだ。

ジョーは、僕が食慾がないのだと思つたらしく案じ顔をして、噛みとる一口くも美味くないというた、口の中に長く置いて、考へく噛んでは藥か何かのやうにグツと吞み下してゐた。彼は、もう一口食べやうとして、小首を傾け、其拍子に僕の方を見たところが、僕のパンは無くなつて居た。

ジョーが、食べ割るのも忘れて、呆れ迷ふて、僕を見守つてゐる様が尋常ならないので、忽ち姉さんの目に停つた。

「どうしたのさと。」、彼女は、茶碗を下に置

いて、鋭く言つた。

「オイく」とジョーは眞面目に僕を諫めて「ビツプや、身體に障るよ。何處かで支へるぞ噛みはしないだらう、え。」

「どうしたのだつていへばさ。」と姉さんは、一層鋭く繰り返した。

「少しでもいゝから咳き出せるなら、出した方が宜いせ。行儀は悪いかもしれないが、身體は大事なもの。」とジョーはひた呆れに呆れて言つてゐる。

姉さんは、自暴になつて、ジョーに掴み掛かり、その兩頬の鬚を掴んで、後部の壁にその頭をコツく打付けた。僕は隅の方で「濟まないな」と思つて、眺めてゐた。

「さあ、どういふ譯だか言つて御覽。この阿呆め。」と姉は、息を切らせながら言つた。

ジョーは、途方に暮れて妻を眺め、困つたといふ風にパンを食べ割つて、また僕を見た。

「ビツブ」やと、ジョーは、嚴かにいつた。

最後の一口を頬張つて、室内には彼と僕と二人切であるやうに、信實の籠もつた聲で――「御前と己とは仲良しだろう。だから、御前の事を告げ口なんかする筈はないがね。でも」と言つて、椅子を動かし、二人の間の床板<sup>ゆか</sup>を眺めまはしてまた僕を見て、「あんな丸呑みは……」

「パンを丸呑みにしたのかへ。此子は！」と、姉は叫んだ

「あのな、小僧」とジョーは、やつぱりパンを頬張つて、妻を見ないで、僕を見て「己も御前位の時分は丸呑みをしたよ。――随分幾度も――其に子供仲間で丸呑みをする奴も大勢見たがな御前のやうな丸呑みをするものを見た事がない。まあ、よくそのまゝ死んでしまはなかつたよ。」

姉は、僕に跳り掛かつて、髪の毛で引摺り上げて、「さあ來て藥を飲め！」と言つた限り、何も言

はなかつた。

どこかの厭な醫者めが、其頃タール液を良藥だと言ひ初めたので、宅の姉さんは、押入に始終それを多量に貯へてゐた。その味の嫌<sup>いや</sup>なだけに効力もあるといふわけで――通常の折でさへ、この藥は興奮劑だとして、時々飲ませられるその度に、僕は自分が塗り立ての塀のやうな臭氣がすると思つた。此夜は事情が事情故この藥を三合位飲まなくてはいけないとあつて、姉は僕の頭を抱へて、無理／＼に其れだけを咽喉へ流し込んだ。而して、ジョーまでが一合半御相伴をさせられた。――今夜は氣分がどうかしてゐるといはれて。僕の腹工商合から判斷すると、ジョーは飲む前は兎に角、飲んだあとこそ氣分が悪かつた事と察せられた。

大人でも、小兒でも、良心の呵責といふものは恐ろしいものである。殊に、小兒が、股引の中の内所の重荷と、心の中の内所の重荷と兩方背負つてゐるとなつたら、まるで重い刑罰を受けてゐる



と同様である。姉さんの所有物を盗むのだといふ罪深い考へと、坐つてゐても、臺所で小仕事を言付けられても股引のパンの處へ手を當てゝ居る必要とが一所になつて僕は氣が狂ひさうであつた。

沼から風が吹いて來て爐の火が赤くなると、それに連れて、あの足に鎖を付けた怖い男が、戸外に來て居て、「もう待つて居られない。只の今食べ物をくれ。」と言つて居るやうに聞こえた。又、もし

か、あの怖い若者が、性來の短氣が押へ難くなるか、時日を間違へるからして明日でなく今晚自分の心臓と肝とを取らうと定めたら、どうしやう、と思つたりした。人が、恐くて身の毛が彌立つといふが、僕のはこの時確にさうなつたに違ひない。それとも他人<sup>ひと</sup>にはんな事がないか知らむ！

丁度クリスマス前の晩の事で、僕は七時から八時まで銅製の棒で、明日の菓御子をかき混ぜさせられた。僕は、足部の重荷が、身體を動かすたび

に、踵の邊へ出て來さうで、どうも困つたが、良い鹽梅にそつと抜け出して、其たけは、屋根裏の僕の寢間へ秘めて來る事が出來た。

「おや！」と僕はかき混ぜを濟せて、寢かされる前に一寸火の前で暖まつてゐた時に、叫んだ「今のは鐵砲の音、兄さん？」

「さゝ。又囚人がやつたな。」

「如何いふ譯なの。」と僕は尋ねた。

姉さんは、説明となると、必らず自分が引取つてしまふので、慳貪に、

「逃げたのさ。逃げたのさ。」と言つた。

姉さんが縫ものをして、屈がんでゐるのを幸ひ「囚人て何？」と口で言葉の格好を拵らへて、ジョーに問ふた。ジョーも、口をひどく動かして、むづかしい返答をして呉れるらしかつたが、「ビツプ」といふだけしか解らなかつた。

## 幼稚園の歌の中より

水町 京子

片々の我れ的笑靨が第一に小さき兒等の口にのぼりぬ

一心に我れをみつめてありし子の顔がえくぼとなり終りけり

ともすればきんぐの如く振まふ子我が右の手をはなさずありけり

我が手をばひとりしめせん争ひに敗れたる子のかなしき腫

玩具めく小さき靴をみてゐたり靴のあるじはわれみてゐたり

ものいはぬ京人形を見る如き兒に向ひゐてもものもひもなし

すみさみたる心の上に子ども等の小さな手がもちてくる幸さいち

とめとめしいとけなき日のさひはひに歸りゆくがに子等とあそべり

日もすがらいたつきなども忘れぬき小さき子等とあそびほうけて

らんらんと十一月の陽ひはてれり前かけの子があそぶ砂場に

前かけの子等のせなかにらんらんと秋の光りが光る赫く

幼稚園の砂場のすなの手觸りのこゝろよさはも霜月の朝

兒等の歌ふ小春の歌にさそはれて秋の山邊の旅を思ひぬ

その父と若き母との物語り小さき兒よりきく寂しさよ

ダーリヤの花のうしろに花よりはすこし大きなかほがものいふ

一大事をなしとげし如く折り紙の赤き小函をさげくる兒よ

ものいひたげに唇を動かしたる兒が一散に我れに抱きつきけり

人形の様なる兒故ある時はものもえいはす向ふなりけり

あだし人の子ぞと思へどいとしさのきはまりもなくつゞく寂しさ

をみなごはをみなごなりき六つの子も我と同じきものおもひする

つつましく人妻めきてふるまふ子六つになる子の寂しきすがた

眼をあげて落葉する樹をみる時は兒等の面わもそゝろかなしき

# 保 育 入 門 (十二)

倉 橋 惣 三

## 九、幼稚園教育の方法

### 第三、其の手段 (ついで)

#### 三、手技、圖畫

一

幼兒の抑えきれない自發性が、そのまゝにあらはれて、聲調音律となり動作身振となると同じく、ものに托して之れをあらはすものが手技であり、圖畫である。勿論、何を型り、何を描くかは、その時々、影響に支配せられる。眼前にある實物が、寫生の手本となることもある。近頃見たもの、心像が浮び出で、手本となることもある。或は想像の所産が手本になつて居ることもある。すなはち、之等の手本の相違から別を立て、ゆけば、

寫生製作、記憶製作、想像製作の項目が列舉せられて、全然違つた性質に考へられる。而して、想像製作のみが自發的のもの、如くにも考へられて居る。成る程、之れも一面の理はそなへて居る。すなはち、その手本そのものの性質からいへば、寫生製作の手本の如きは。最も客觀的に決定せられて居るものである。記憶製作の手本も之れに準ずるものである。

しかし、何故にそれが手本となつたか、一層進んでいへば、幼兒が何故にそれを手本として製作を始めたかといふことを考へる時は、皆ひとしく自發性が基になつて居るのである。すなはち、何

でもが勝手に手本となるものではない。撰ばるゝのである。而して、選擇の準據となるものは、一つに幼兒の感興である。而して、此の感興は純自發性のものである。

## 二

此の感興、即ち自發性を要素として考へて、始めて、幼兒の特技、圖畫を正當に理解することが出来るのである。従つて其の教育を正當ならしむめ得るのである。此の點に於て幼兒の特技圖畫は偉いなる藝術家の製作に最も近邇せるものである。少くも技巧の學習練習を主目的とする純課業的手工圖畫とは、此の點に於て區別せられて置くべきものである。

(い) すなはち一齊教授的に、一つの畫題を課する如きことは最も避けなければならない。もとより未だ自ら畫題を撰ぶことの出来ない様な幼兒に誘導的に之れを提供して、その自發を促すことは悪くないのみならず、時には必要のことである。

しかし、その場合と雖も、それを描かなければならぬといふのではない。純粹の自發によるにせよ、誘導を俟つたものにせよ、兎に角く、撰擇といふことのないものは、幼兒教育の手段としての圖畫として意味のないものである。

(ろ) 況んや、論理的分解の結果による、學習的圖畫の順序として往々に行はるる簡單なる幾何學的圖形の練習の如きは、當然避くべきことである。但し之れも亦運動感覺練習といふ如き意味の興味のもとに行はるゝことは必ずしも斥くべきではないが、それよりも最必要に、最價值多きものは具體畫である。

(は) 描寫の技巧については、多くを期待する必要のないことは勿論である。殊に、形態、色彩、割合等の所謂靜的方面の正確精細は、到底嚴格なる期待をなし難い。蓋し、幼兒は、そのものを、そのものとして、靜的描寫を試みて居るのではなく、その動的方面を描かうとして居るのであるか

らである。例へば、犬を描寫せんとするのでなく、走る犬を描かうとして居るのである。植物學者の觀察の如き態度を以て花を描寫せんとするのでなく、其の美しく、愛らしく咲ける事を描かうとするものである。故に幼兒の畫に對しては、之れは何であるかと問ふよりは、之れは何がどうして居る處かと問ふべきものである。又此の意味の期待を以て、その指導を與ふべきものである。此のことは幼兒教育者の深く注意を要することであつて此の事實を忘れて、幼兒の圖畫の興味を正當に指導することは決して出來ない。幼兒は犬の走る事を描かうとして居るのに、犬そのものを描いて居るものと解釋せられ、又その如く要求され得ない幼兒は次第に圖畫の技巧の六かしさのみを覺えて其の感興は失せて仕舞ふのである。

以上の諸點は、手技に就ても同様である。たゞ手技に於ては其の材料からの支配が、單純なる感興へ、圖畫よりも一層發表の工夫を要求すること

が多くなるの違ひが多少あるのみである。故に、手技に於ては、或は豆細工、折紙、粘土細工といふ風に、その材料が主な位置を占め、遂には、その材料を使用して何を製作し得るかといふ様な傾向を生じて來るのであるが、材料は客にして、何を作らんかの選擇が主なるべきものであることは、此の場合と雖も理論上變りはない。

### 三

但し、圖畫、手技が幼兒教育の範圍内としても音楽、動作遊戲等に比して、練習的性質を比較的多く有して居ることは事實である。必ずしも技巧の上達そのものを目的とするのではないとして、描出製作といふことが、既に、「出來得る限り巧に、正確に」といふことを含んで居るのである。是に於て、純粹の遊戲<sup>△△</sup>に比して、作業<sup>△△</sup>として區別せらるゝことも、敢て不當ではないのである。併し、作業としても、前述の「幼兒教育の手段としての」圖畫手技の本質は、どこ迄も第一としなければならぬ。

# 雜誌

## ○本會二月常會

本會二月常會は二月十三日午後一時半より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開きます。今回は東京帝國大學文科大學教授松本文學博士の『練習及び疲勞』といふお話があります。此の問題が、實に幼兒教育者の最も慎重な研究を要すべきものであることは言を俟ちません。此の二つの事實が正當に理解せられたならば、幼兒教育の練習的方面の仕事に最も基礎的解決が與へられるものといふも過言でありませう。殊に博士は種々の實驗上の實例を以て懇切にお話下さる筈でありますから、最も有益にして興味も亦多きことと信するのであります。廣く教育の諸方面に涉つて多數の方の御來聽を希望にたえないのであります。

## ○上野文「心理學通義」 學士著

文學士上野陽一氏の前著「心理學要領」は簡明に心理學全體に亘る諸問題の要領を述べて、斯學入門の便利なる書として本誌に紹介しましたが、「心理學通義」は更に、此の書の參考的評論として著はされたものであります。心理學の諸事項の最も理解し易き近著として、諸君にすゝめします。(東京市京橋區銀座一丁目大日本圖書株式會社定價二圓五十錢)

## ○葛原幽新唱歌集 氏作歌

少年文學の熱心家葛原幽氏の新唱歌集は「銀世界」、「太陽」、「新年」其他十二冊を第一回刊行として出刊せられました、一冊四曲を収め作曲も夫々有名なる音樂家の新作になり、確に此の方面の缺陷を補ふものであります。(東京市神田區橋本町朝野書店 定價各一冊金十錢郵税二錢)

## ○兒童博覽會の玩具及兒童用品募集

三越第七回兒童博覽會は来る三月二十日より五月五日まで東京三越吳服店陳列場に於て開催の筈なるが、之れを機として、左の通り玩具及コドモ用品の懸賞募集をなすといふ。

- 音樂玩具 (賣價一圓以下)
- 戶外玩具 (賣價五十錢以下)
- 學校用辨常箱 (賣價一圓以下)
- 肌着 (賣價一圓以下)

- 應募品は必ず實物として製作されたものなるを要す。圖案説明のみなるは一切採用せず
- 應募品は一人數種を提出さるゝも妨げなし
- 應募品は密封したる上に宿所、姓名を明記し「東京市日本橋區駿河町三越吳服店內兒童博覽會懸賞係」宛に送られたし
- 募集締切期限は来る二月二十八日とす
- 應募品は兒童用品研究會に於て審査し、其の優秀なる者に對し左の賞牌及紀念品を贈呈す
- 金牌 銀牌 銅牌
- 應募品は一切返却せず
- 當選品は本年三月二十日より開會の第七回兒童博覽會に陳列發表すべし

ビ  
エ  
タ  
ロ  
ウ  
の  
夫  
人

## フレペール追懷錄

S K 生 譯

### 二、リーベンスタインに於けるフレペール

人はこの世に偉なるもの、善なるものを齎す天才に頼つて、その異常なる賜物により天才がすべての人間の完全を結び付けることを希望します。

この不合理な要求の爲めに、天才は必ずしもその天分を人として充分に發揮してゐないといふことのために屢々誤解されたり誹謗されたりします。

私達は、天の光明が人が働かんとする原野以外の地に對してはその人に照さず、又人の心の奥底まで透入することは出来ないといふことを忘れて居ります、而して神的靈感の傍には光明によつて未だ透入されざる自然力が伴はれて居ります、このものあるがために感化されざる力が残り、人類の弱點が残つてゐるのであります。

フレペールも亦この例に漏れませんでした、而

して彼の生涯に於てのみならず、死後の今日尙且種々の不當な判斷を受けさせられました、これらの判斷をなした人々の中には彼がその方法を速かに實際に施さんとして遭遇したすべての障礙をも考量することなくして漫然彼の教授科目のあるものに對し彼等の所謂缺點なるものを指摘することに於ける彼の初期の生徒もありました。

新しきものは常に定住した主張とは反對に立つものであります、而して先づ新しきものが効果的であり得る前には既に陳套に墮したるものを掃ひ清めなければなりません、新思想の紹介に當つてはその代表者は己に反對する人にも物にも些の顧慮をも敢てしません、而してそれがために屢々最



も親しきものをさへ手強く傷けるのであります。

フレーベルは屢々彼の友達や親族が、その意見や利福に於て、彼の思想のために必要又は最善であると彼の思考したことに調和しないときは彼等を苦しめました、けれども茲に私達の識別しなければならぬことは人間の利福に關する事柄の健全な判斷の缺乏と我利追求の目的に役立つ事柄の充分な判斷の缺乏とであります、後者は多くの人間の主なる動機であります。この卑陋な我利追求は眞の天才、眞に思想を懷いて居る人の關する所ではありません、何故ならば眞の天才はこの思想の聖壇に犠として自らを横へなければなりません、彼の全生涯を通じてフレーベルは、彼の身は無論のこと彼の利福に彼に親しき者等の利福までも彼の思想の擴充弘布のために犠牲にして更に顧みなかつたのであります、これは多少の損失をなしてフレーベルに對し不満の情を懷く人々の忘れてはならぬ點であります。

カイルハウに於てはフレーベルはこの教育的理想を實現する必要は材料を得るために實驗をなし得たに止ります、その思想は先づ幼芽の状態で彼の手握られ未だ熟するに至りませんでした、この理想を完成させる手段も同じく未だ緒に就か思かつたのであります、フレーベルは彼の考へた新形式に對する醱酵作用に於て實際の教師のすべての職務を大抵ベスタロツチ、其他の彼の先驅者以上には果し得ませんでした、それでですから彼の生徒の或者達がその智識の缺陷を慨いたのも無理はありません、といふのは教授時間は過多に課された實際的勞働とカイルハウの野や森の散策のために切り詰められてゐたからであります。而かも本當を言ひますと品性と實際的能力との形式に關する所得はこれを償つて餘りあるものであります。フレーベルが彼の生徒の徳育のために如何に多く感化を及ぼしたかといふことは彼の臨終に際して多くの生徒によつて現されたる限りなき愛と感謝

の念によつても知られるのであります、この方面に於ても彼の特別の使命が既にベスタロッチによつて正路に戻された教育の改良とふことを意味してゐるのではなく寧ろ教育全體の新しい基礎を作り、従つて教授の改革に向つて間接に更に多くの努力をなすことに在つたといふことが認められます。彼が唱へ出した兒童の天性に關する新しい眞理は教育の諸般に影響を及ぼさずにはゐませんでした、而してこれがためにフレーベルは彼に託された眞理の寶玉が質問され攻撃される度毎にいつも屈伏するなぞといふことは夢にもありませんでした。

けれども一面に於て彼の説の適用が彼に未だ思考されない點に觸れると彼はよく甚しく子供らしい態度で無智を表白しました、彼は斯る際にはよく「私はその事に於てその方面を未だ考へてゐませんでした、考へてみませう、さうかも知れませんが」とか「それは新しうございます、けれども正

しいに違ひありません、尙私達でそれを充分調べてみなければなりません」などと言ひました。彼は兒童——或はその他からさへも學ぶことを辭しませんでした——何故ならば彼は空虛を蔽ひ隠す智識の驕傲といふものを全然持つてゐなかつたからであります。

或日私が彼を訪ねると彼は眼を耀かせながら「今日はよい日です、新しいことが澤山私に來ました、大概毎朝眼が覺めるゝこれは求めないのに自然に私に來ます、けれども今日はそれが殊にかいやかしく明瞭でありました、さうです、この眞理は無窮です、而していくら考へても考へても考へ盡せるものではありません」と言ひました。

彼を一貫した思想に定住させることは多くの場合甚だ困難でありました、何故ならばもし新しい思想が彼に起ると彼は屢々彼の特殊の題目をも顧みず、彼の聽從者に對して何の思慮をもなさずに何處までもそれに従つてゆきました。彼は何時も

話をしながら自分も學んで居りました、それがために彼の説く所の論理は非常に難澁でありました。それがために彼は多くの人に思想に統一がな  
いと思はれました、その上彼の特別な話し振と事柄をよく分らせるために二度も三度も一つことをいふのと、語中に挿入句をするのと――すべてこれらのことが一般の人々、殊に婦人に對して彼のいふことを譯の分らぬものにしてしまひました。

リーベンスタインに於て時々、私が彼に或人を紹介しますと彼は望まれるまゝにその人に彼の方法を説明しやうとして何うしても旨く話せないとよく私の許に來て「あなたのいふことの方がよく分ります」といひながらあれこれの説明を私に要求しました。

折々「混亂してゐる」とか或はこれに似た言葉が彼の聽者の唇から漏れますが大部分の聽者は一々の言葉の中に現れてゐる深き確信の力によつて主題の眞の理解が不可能である場合に於てさへす

つかり惹き入れられて了ひます、殊に大抵の婦人は彼がその母的感情に強く訴へるときには感動させられずにはゐられませんでした。

フレーベルは私が彼の主題に深い興味を持つてゐることと私がそれを理解してゐることを信じなかつた前には彼は私を疑つて居て信じませんでした、彼は彼の思想の正しき理解の期待と彼の思想の紹介のために彼に約された援助との兩方に於て屢々裏切られたので彼は今では道樂氣の人や尻馬へ乗る人を恐れてゐました、而してこれらのものに對して高を括つてゐたのであります。たゞ私が雑誌に匿名で數回筆を執つたことと（フレーベルは是等の記事は事實以上に賞讃しました）漸々實際して行く中に私の興味の眞劍なことが彼に分るやうになつてから私はその専門に立入つて親しくされました。

私はフレーベルの教育學の原理と實際的方法に於て彼の教育法を聞かされましたが未だ彼の思想

の究竟の根柢と出發點とを知りませんでした、私は彼に彼の世界論の深遠なる基底を充分に私に披瀝してくれるやうに望みました、彼は「それはいいません、私は私の最後の言葉を私と共に墓場に持つて行くのです、その時は未だ來てゐません。」

私はこの最後の言葉を發すべき義務あることを彼に説いてみました、利目はありませんでした、公でなくても駄目でありましたが、遂に或日私の家で彼は或る古い寫本の數葉を讀んで、その記事のある本を貸してくれと頼みました。翌日私が彼に會ひに行きますと彼は「今日こそ私の最後の言葉を聞かして上げませう、私は昨夜殆んど夜を徹してあなたの本を讀んで居りました、それであなたが私のやうな考を懷いていらつしやつて私を誤解なさることはいないといふことが分りました」と云ひました。

彼は他人の關聯せる思想を見出した時は彼の思想の意義に數種の理論を解釋しましたが彼は私の

思想の中に彼の思想に深き透入を容易ならしむる多少の關係ある事物の獨創的意見を見出しました而してそれを理解すべき鍵を漸々に私に與へました。彼の説明のみを以てしてはあれを成就することとは出来ませんでした、彼の説明は箴言的に過ぎて不可解でありました、長きに亙つての研究と私自身の勉とが年を経る間に何時か其處に達せしめた、而してその時に於てもその發達と完成とは尙何世紀をも要すべき思想——フレーベルが彼が先驅者の手から過去の花の種子として受取り而して彼が現在にも尙幼芽の狀態に残して行つたので次代の思索家及び方面を異にした思索家達もそれを時代の一般思想の要素として發達させ完成させなければならぬ思想の理解の第一歩に達したに過ぎません、現在はいゞ搖籃の兒童と幼稚園の兒童とに對する最初の實際的應用を行ひ、斯くて現在の人々が始めたことを完成せしめ得べき未來の人々のために地盤を堅めることをしなければなりません。

せん。

フレーベルの組織に適用された神祕主義の非難は彼の教育的思想の根柢に横つてゐる理論が充分に理解され科學的に確立されない範圍に於て相當の理由を持つて居ります、而してそれがためこれが速かに實際に起るであらうといふ望みはないと言つてもいい位でありました、何故ならば彼の主張の唱導者の多くはたゞその外面のみを理解し得たに止るからであります。

人類に最も深い關係のあるこの問題の解決が現はれ得る前に現在の鬭争は現代の諸問題をその解決に近からしめなければなりません、フレーベルは彼と同時代の人々の中に彼の思想を理解してくれる人の少かつたにも拘らず彼は斯る時の來るべきことを固く信じて居りました。ある時私がその進歩の鈍く且つ不完全なことを慨きますと彼は「私が死んで三百年の後、私の教育法がその理想通りに充分に確立されるならば私は天に於て悦び

ます」と言ひました。

フレーベルは彼の最後の日の安息所をリートペンスタインに見出しました、大都會の住居は彼に取つては何時も煩はしく且つ惱ましくありました。

「私は田園生活をなして自然と親しむやうに生れ附いてゐます」と彼は染々と述べたことがあります、彼は大なる世界の國語を理解しませんでした、文學的の教養は先天的の能力と専門によつて彼の自敎的な獨創的な思想の傾向には關係のないものでありました、而して彼は科學のあれこれの目的を論議するには不適當でありました、しかしそれよりも尙彼が不適當であつたのは大都會で彼が出會つた奸策や俗惡や惡意と戰ふことでありました、乃でリートペンスタインの近くの百姓家に住居を定めるやうになつた時彼はそれから逃れたことを悦びました、彼はその前の冬ドレスデンで保姆の教育に従事してゐたのでありました。

此地で彼は再びチューリンギヤの懐かしい空氣

と美しい自然とに取圍まれて何時も親しく愉快にこれらと交つて居りました、而して彼に依頼せる受容的な若い研究者等は主題に對する不完全な智識から反對する等のことなしに彼に彼の教育法を述べべき機會を與へたのであります——而して彼の講義に出席した者は誰でも彼を勵ました幸福が如何に彼の生徒の熱心に反照したかを認めたに違ひありません。

マイニンゲンとワイマールの公子達、殊に度々フレーベルの學校へお伴ひ申上げた私の保護者であり友人であるワイマールのイダ女公が彼の主張に興味を持たれたことは彼の勇氣を新にしました、私はフレーベルが彼の主張のために希望したことを澤山この仁慈にして優渥なる公女に取成さなければなりませんでした、この公女のお蔭でフレーベルは彼の學校のために適當な場所を得ることが出来ました。

或時私が彼と共にリーベンスタインの附近を散

歩いてゐた時に緑の原の中に大變都合よく位置してゐるマリエンタールの小さな城に出會ひました、フレーベルは靜に立停つて「あたりの様子を御覽なさい、マレンホルツさん、こゝは私達の學校にするといふ所になりますよ、而して名前も至極詭向きではありませんか——マリエンタール、マリヤの谷、救世主を育て上げたマリヤ、人類全體の母と仰ぎたいそのマリヤの谷なのです」と言ひました。私は彼にその城の持主なる君公に不用になつてゐる建物を借りたいと懇願するやうに又私はイダ女公を通じてそれを借りることが出来るやうに彼に盡力しませうと言ひました。斯くて役人が種々反對したので大變長くはかかりましたが兎も角それは彼の手に入ることにになりました、女公がその兄君に附きつきりで願つて下さつたのでこの目的は數月ならずして達せられた譯なのであります。私はもう殆んど斷念したフレーベルに愈々公式に許可が出たといふことを知らして喜ばせてや

りました。この事が早く進んだに就ては女公がフレールベルの住つてゐる百姓家の如何に都合が悪いかといふことを明かに御承知になる機會があつたのであります。

フレールベルは私と共に女公から食事のお招きを受けたことがあります、その時フレールベルは牛小屋に隣つてゐる押入に長く藏つて置いた上衣を着て行きました、所がこの上衣に牛小屋の匂ひがすつかり浸込でゐました、教室の小窓が牛小屋の方に開いてゐてその匂ひが教室にも流れ込むためにこの匂ひに馴れてしまつてゐるフレールベルは少しもそれに氣が付きませんでした、けれども女公は食室へ入つていらつしやると同時にその匂ひをお嗅ぎ附けになりました、匂ひは外から窓を通して入つて来るのであらうと思はれたので女公は窓を閉ぢられました、しかし匂ひは依然として残つて居ります、小さな聲で臭いわけをお話すると女公は大相面白がられました、女公の若き姫達も同

じやうに笑ひ興せられました。私達の上機嫌の原因を彼に話した時に彼は心から話に身を入れて「我が學校をマリエンタールに移轉することの如何に急務であるかはお分りになりました。ごさいませう」と言ひました。

食事が済んで後當時儲君に擬せられてゐた現在のワイマール太公が夫人と數人の貴婦人と紳士とを伴うて女公を訪られました、而してフレールベルにはこのお歴々の方々の前で彼の思想を述べやうに要求されました、私は彼に要を摘んで明瞭に簡單にお話するやうにと頼みました、それで私は彼が例になく成功したので驚かされました、眞實彼はすべての彼の聽者を感動させるやうに熱心に話しました、度々リーベンスタインに赴かれる中に既に私からフレールベルの主張を耳にされたところのある、而して彼の學校に於て兒童の遊戲に出席されたことのある太公はフレールベルの不明瞭な話振に就て懷いて居られた前々からの非難を取消さ

れました。太公は「彼は豫言者のやうに話をする」と言はれました、この承認の表白は甚しくフレールを悦ばせました、彼は私に「あなたは私が今日どんなに悦んでゐるかを知つてゐますか、あの食堂の建築の美しい調和よ、私は丁度殿堂の中にあるやうな心持がしてゐました」と言ひました。

拱形<sup>な</sup>の天井を支へてゐる大理石の柱は彼の美術的の眼に印銘を與へました、私は常に未だ嘗つて美術的の修練を経てゐないフレールの中にこの調和と美に對する感情を認めました。自然に於ける何物も彼を逃れませんでした、周圍の國を飾るすべての木、すべての美しい曲線、すべての色の混和、すべての空の會ひ、まこと美と調和を現すすべてのものは彼によつて認められました、而して學生と共に散歩する際には屢々自然の深き解釋と神の創造の熱烈なる賞讃とに役立ちました。これらの解釋や賞讃は學生等に忘るべからざる深い印銘を與へました、けれども一面に於て調

和が少しでも缺けて居ると彼は苦にしました。

或時すべての色がぐちゃぐちゃに入り混つてゐるダリヤの花壇を見て歩いてゐると彼は「私は此所に色の調和を見ることが出来ません」と言ひました。

この感覺の鋭さと細やかさとは彼のすべての器官に及んで居りました。遠くから彼は植物と食品と酒との匂ひを嗅ぎ分けました。私はこれを彼が生れ附き神に課されたる使命を果すべくあらゆる點に於て如何によく適して居るかといふことの證據として見て居りました。彼に拒まれた話し方の巧みさと文學的表現の缺乏さへもこの目的のために共働したのであります。たとへば彼が言葉を以て充分に彼自身を他人に理解させることが出来やうとも彼は文字を以て充分に彼の思想を現し得やうとは思はれません。或る一方に憊すること及び感嘆範圍に踰越するといふことは天才をしてその使命の中に停らしめて他に逸せざらしめぬために必



要なことであります。普遍的の天才といふものは  
尠いものであります、而してフレーベルも決して  
普遍的の天才ではなかつたのであります。この否  
定し難き豫言的天稟を有するにも拘らずしてフ  
レーベルは彼の仕事に關係のない彼の友人に對し  
て溫い心を懷いて居りました、而して彼が彼の思  
想に無慾の態度を以て事へたと同じやうに利害を  
忘れて何處までも彼等を助けやうとしました。

ミッテンドルフは私にこの小逸話を話しました  
フレーベルが或日附近を散歩して歸つて來て大層  
暑がつて衣服を着換へたいと言ひました、彼の夫  
人は衣裳部屋を開けると驚いて「押入は殆んど空  
虚です、盜賊が入つたのでせう」と叫びますとフ  
レーベルは「盜賊は私さ」と笑ひながら答へまし  
た、而してその時彼は妻に火事に遭つた近所の村  
の人がその朝彼の許へ來て救うてくれと言つたの  
でその時金を持合せなかつた彼は彼の所有物を彼  
等に與へなくつては濟まないやうに感じたのであ

ると話しました。この溫い心は屢々熱心に働き内  
的に働く人々によくあるやうに無愛想な粗雑な外  
面の下に隠されて居りました。子供はこれを少し  
も苦にしませんでした、而して自分達を愛してく  
れる人の心を直感によつて知りました。私がフレ  
ーベルと共に村の路を歩いてゐますと家の中にゐ  
た子供は自分達の父の許へ走り寄るやうに入口か  
ら駆けて出て來ました。やつとよと／＼歩ける位  
の小さな子供も彼に縋り付いてしばらく彼と共に  
歩いて行くのであります。如何なる愛を以て彼は  
子供等を抱擁するのでありませうか、愛は彼の眼  
から輝きマグネットのやうに子供等を惹きつける  
のでありました、それは人間（彼は人間の幼芽を  
子供に見ました）の愛でありました、斯る時に彼  
の發する「私は各の子供の中に完き人の可能性を  
見ます」といふ言葉は私に不滅の印銘を與へまし  
た。

マリエンタールに於てしばらくの間フレーベル

の幼稚園に出席して屢々フレーベルと一緒にゐた二人の子供の母親がリーベンスタインの住居を引き拂ふに當つて暇乞ひに來たのを見ました、二人の子供の内、五才になる方はフレーベルの首筋に嚙付いて泣きながら行かうともしませんでした、その子は平常非常に母親を慕うてゐたのですが母親がそれではお前だけ此所に残つてゐてもいいといふと大層悦びました、多分その子の精神的要求と智識的要求とが此所に於て始めて充分に充たされたからであります、而してその子は多分すべての發達が人間の心に齎す満足を感じてゐたのであります。

顧問 高島平三郎先生

# モドコ

此の月刊「繪ばなし」は幼い女の子にも男の子にも誠に良いお友達である。さし繪の綺麗なる事と片假名にて記事の教育的なるとは讀んで面白く大に爲になる家庭向の雑誌なり  
◎子供を愛する家庭にはなくてはならぬ讀物なり

毎月一回 定價一冊金十錢郵税 最寄書店になくば  
五厘六冊郵税共金五 本社へ御申込あれ  
一日發行 十八錢十二冊郵税 御注文は振替貯金  
共金一圓十錢(前金) なれば尤も便利也

●郵便切手代用一割増●

東京小石川林町五七  
振替東京二七九六三

コ  
ド  
モ  
社



# の一本目 年幼本白

## 報畫の供子き白面くし美

文學士 倉橋惣二 先生 監修  
 繪畫は 六畫伯の執筆

◎可愛いお子様を

美しく善く育てたいと思はれるお母様方の爲めに深い注意と多くの苦心を重ねて理想的に編輯せられ今度新たに生れたのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様に

お興へになつて玩具やお菓子よりも喜ばれ面白がつて樂しむ間に感情を高尙にし美しき習慣を養ひ清き心の糧となるのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様が

幼稚園から尋常小學でお習ひになつたことを喜び笑ひ興する間に知らず識らず復習し補習するのはこの日本幼年です

◎最後にお母様に

御注意を願ふのは日本幼年は文學士倉橋惣三先生の監修で六畫伯の彩筆になり紙數も多く印刷も鮮明で従來有りふれたものに全然超越して居ることです

定價 第一版部 一十錢 前金 壹半 前金 一圓 廿三錢

婦人畫報  
 少女畫報  
 日本幼年

發行所 東京 京社

東京市京橋區鍛冶橋外 振替東京 二一八番

# フレーベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保

育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ獻出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品  
幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演  
說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレーベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組  
織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メル事件

## 本會々長

中川謙二郎

## 本會幹事

(イロハ順)

井村 くに 池田 トヨ 芳賀 晴

坂内 ミヅ 和田 實  
武井 綱枝 岡部 ヤす  
安井 哲 福田 ふく  
雨森 銅 坂井 ふで

## 本會評議員 (イロハ順)

乙竹 岩造氏 吉田 熊次氏 田中 ふさ氏  
野口 幽香氏 榎山 榮次氏 藤井 利譽氏  
下田 次郎氏 日田 權一氏

## 本會客員 (イロハ順)

伊澤 脩二氏 巖谷 季雄氏 岩谷 英太郎氏  
波多野貞之助氏 細川 潤次郎氏 本間 辰藏氏  
戸野 周次郎氏 大瀬 甚太郎氏 奥好 義氏  
尾田 信忠氏 大久保 介壽氏 嘉納 治五郎氏  
唐澤 光德氏 谷本 富氏 高島 平三郎氏  
棚橋 源太郎氏 多田 房之輔氏 田中 敬一氏  
中島 力造氏 中村 五六氏 野尻 精一氏  
野上 俊夫氏 久留島 武彦氏 松本 亦太郎氏  
松本 孝次郎氏 馬上 孝太郎氏 富士川 游氏  
小西 信八氏 淺岡 一氏 雀部 顯宜氏  
櫻井 光華氏 三島 通良氏 篠田 利英氏  
東 基吉氏 瀬川 昌書氏 尺 秀三郎氏  
菅原 教造氏



# 幼稚園用品

## 家庭用玩具



東京九段

### フーベル館

新築後工場も整頓致し店も精々片々付申候間益々  
 業務に奮勵仕り物品を精選し格價を最も低廉に  
 需に應じ可申候に倍舊の御愛顧を願上候

## 日本玩具研究會 會員募集

會費は一ヶ月五拾錢にて研究した面白い御爲めになるよい玩具が毎月得られます(申込次第規則書送る)

### 本會評議員

巖谷 小波	甲賀 藤子	吉田 熊次
多田房之助	野口 ゆか	倉橋 惣三
久留島 武彦	山脇 春樹	町田 則文
小西 信八	三土 忠造	三輪田 元道
莊司市太郎	森村 開作	

### 本會幹事

稻垣 知剛	和田 實	河野 清丸
高市次郎	曾根松太郎	武藤 忠義
野村 忠寛	松田 茂	藤五代 策
岸邊 福雄	御園生金太郎	

申込所 東京九段 日本玩具研究會

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)  
 大正四年二月五日發行  
 大正四年二月五日納本済  
 婦人子ども 第十五卷第二號

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場